

令和4年産なし管理ポイント 第7報

令和4年7月19日

J Aはが野梨部会、J Aはが野営農部
栃木県芳賀農業振興事務所経営普及部

今回のポイント

- 着果過多にならないように注意！
- 病害虫は特にハダニ類、カメムシ類の発生に注意！

1 生育状況

(1) 果実肥大

○幸水は満開後80日時点で平年よりやや小さく、豊水は満開後90日時点で平年並みである(表1)。

○6月中旬～7月上旬の干ばつの影響により、幸水は満開後60日以降、豊水は同70日以降平年より停滞している。

表1 本年の生育調査ほにおける果実肥大経過(調査地点：芳賀町稲毛田)

品種名 (満開日)	年次	満開後日数別果実横径(mm)						
		30日	40日	50日	60日	70日	80日	90日
幸水 (4/18)	本年	20.1	27.4	32.3	36.7	42.1	48.7	
	平年比	93%	100%	102%	102%	100%	96%	
	前年比	113%	113%	112%	109%	109%	105%	
豊水 (4/15)	本年		24.9	29.2	32.4	37.9	43.8	52.4
	平年比		98%	101%	99%	103%	100%	99%
	前年比		101%	104%	101%	103%	100%	103%
【参考】 にっこり (4/11)	本年		25.6	31.0	34.1	38.4	42.5	46.9
	平年比		112%	109%	105%	104%	104%	102%
	前年比		135%	115%	109%	101%	103%	102%

注) 幸水及び豊水の平年値は直近10か年の平均。にっこりは直近4か年の平均のため参考値。

(2) 病害虫発生状況

○7月上旬頃から高温干ばつの影響によりハダニ類やアザミウマ類、カメムシ類の発生が散見される。

○黒星病や炭疽病の発生は少ない。

(3) その他

○6月中旬～7月上旬の高温干ばつにより、葉焼けが散見された。

2 生育予測情報

(1) 収穫期予測

○農業試験場による幸水の収穫期予測では、管内の生育調査は収穫始が8月14日で平年より2日早く、前年より4日遅い見込み、収穫盛が8月23日で平年より1日早く、前年より4日遅い見込みである（表2）。

○管内各園の収穫期は、生育調査ほどの開花差（表3）を考慮して予測する。

表2 農業試験場による本年の幸水の収穫期予測（芳賀町）

収穫ステージ	予測日	平年差	前年差
収穫始	8月14日	-2日	+4日
収穫盛	8月23日	-1日	+4日

注) 平年差、前年差は-は早まることを、+は遅れることを示す。

表3 本年における生育調査は（芳賀町稲毛田）と各地区の開花盛日の差

地区名	生育調査ほどの差
真岡市寺内	-4日
真岡市根本、芳賀町東水沼・下高根沢	-1日
芳賀町稲毛田、益子町小泉・益子	±0日
市貝町椎谷	+3日
芳賀町給部	+4日
市貝町続谷	+6日

注：-は早い、+は遅いを表す。

(2) 果実肥大予測

○農業試験場における果実肥大予測では、幸水は平年よりも小さく、豊水は平年よりもやや大きくなる見込みである（表3）。

表4 農業試験場における本年の果実肥大予測（収穫盛時）〔7月6日発表〕

品種		予測値	平年比	前年比
幸水	果実横径	92.0 mm	93%	95%
	果重	364g	79%	82%
豊水	果実横径	102.6 mm	102%	109%
	果重	530g	103%	127%

3 今後の栽培管理のポイント

(1) 補正摘果

○本年は結実が良かったため、着果過多にならないように注意する。

○幸水及び豊水は、果実の日肥大量がピークとなる満開後90日頃に裂果が発生する場合がありますので、裂果が収まる満開後100日頃から実施し目標着果量に仕上げる。

○にっこりは満開後120日頃に裂果が発生する場合がありますので、満開後130日頃から実施する。

表5 主要品種の着果目安

品 種 名	目標収量 (kg/10a)	平均果重 (g)	収穫時の樹冠面積当たり着果数 (着果数/m ²)
幸 水	3,000	350	10.6
豊 水	4,000	400	12.4
あ き づ き	3,000	400	9.3
新 高	4,000	650	7.6
に っ こ り	4,000	650	7.6

注) 目標収量や着果数は、樹冠面積占有率90%、商品化率90%として算出した。

(2) 病害虫防除

① ハダニ類

- 多発すると防除が困難になるため、発生初期防除に努める。
- 薬剤抵抗性が発達しやすいので、系統が異なる薬剤をローテーションで散布する。同一系統の薬剤は年1回のみを使用とする。
- 主に葉裏に寄生するので、薬液が葉裏までよく付着するよう十分な量を散布する。

② 果樹カメムシ類

- 今後も高温少雨が続きと飛来数の増加が懸念される。また、今年は餌となるヒノキ球果の結実量が多いため、8月以降の果樹園への飛来数が多くなる可能性がある。
- 園内をこまめに観察し、侵入していることを確認したら登録のある農薬で防除する。
- 夜行性のため、動きの鈍い早朝に防除する。

③ 炭疽病

- 近年、豊水、新高で発生が多く、にっこりでも発生が確認されている。
- 5月下旬～7月に最も感染しやすいので、部会防除暦を参考に農薬防除を徹底する。



農作物には登録農薬を使用し、使用基準を遵守しましょう！

身支度も
万全にし
てまる！

① 農薬容器のラベルをよく読み正しく使う（※）

② 農薬の飛散防止を徹底する

③ 農薬の使用状況を正確に記帳する

※既に購入されている農薬について、ラベルどおり使用できない場合もありますので、メーカーのチラシや県のホームページ等、最新の情報をご確認ください。

栃木県農業環境指導センター

検索

CLICK!

(3) 台風対策（事前対策）

- 多目的防災網の補修や固定状況を確認するとともに、結果枝の棚への固定状況を見直しておく。
- 苗木は支柱によく固定しておく。

4 気象経過（なし開花期以降）

